【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年4月24日(2014.4.24)

【公表番号】特表2011-524339(P2011-524339A)
【公表日】平成23年9月1日(2011.9.1)
【年通号数】公開・登録公報2011-035
【出願番号】特願2011-509678(P2011-509678)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/39　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　37/04　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/04　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　33/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　39/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/39
Ａ６１Ｐ　37/04
Ａ６１Ｐ　31/04
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　33/00
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｋ　39/00　　Ｇ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年3月10日(2014.3.10)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４５】
本願でＩＡＰ阻害剤として使用され得る化合物を以下に示す：

【表１】

Ex	名称	+MS ESI (M+H)+
1	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(4－フルオロ－ベンゾイル)－チアゾール－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	
2	(S)－N－[(S)－シクロヘキシル－(エチル－{(S)－1－[5－(4－フルオロ－ベンゾイル)－ピリジン－3－イル]－プロピル}－カルバモイル)－メチル]－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	
3	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[5－(4－フルオロ－フェノキシ)－ピリジン－3－イル}－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	
4	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(4－フルオロ－フェノキシ)－ピリジン－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	
5	(S)－N－[(S)－シクロヘキシル－2－((S)－2－{5－フルオロ－2－[(4－フルオロ－フェニル)－メチル－アミノ]－ピリジン－4－イル}－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル]－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	
6	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(4－フルオロ－ベンゾイル)－5－メチル－チアゾ－1－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル－1)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	515
7	(S)－N－{(S)－2－[(S)－2－(4－ベンゾイル－5－メチル－オキサゾール－2－イル)－ピロリジン－1－イル]－1－シクロヘキシル－2－オキソ－エチル}－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	481
8	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(4－フルオロ－ベンゾイル)－5－メチル－オキサゾール－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	499
9	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(4－フルオロ－ベンゾイル)－5－メチル－チアゾール－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	487
10	(S)－N－{(S)－2－[(S)－2－(4－ベンゾイル－オキサゾール－2－イル)－ピロリジン－1－イル]－1－シクロヘキシル－2－オキソ－エチル}－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	485
11	(S)－N－((S)－1－シクロヘキシル－2－{(S)－2－[4－(2，4－ジフルオロ－ベンゾイル)－チアゾール－2－イル]－ピロリジン－1－イル}－2－オキソ－エチル)－2－メチルアミノ－プロピオンアミド	519

１２	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［４－（１Ｈ－インドール－２－カルボニル）－チアゾール－２－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル｝－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	５２２
１３	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［２－（４－フルオロ－フェノキシ）－ピリジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４８３．２７
１４	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－（（Ｓ）－２－｛２－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－ピリジン－４－イル｝－ピロリジン－１－カルボニル）－２－メチル－プロピル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４５６．２７
１５	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［２－（４－フルオロ－ベンゾイル）－ピリジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９５．２７
１６	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［２－（５－フルオロ－ピリジン－２－イルアミノ）－ピリジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４８３．２８
１７	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－（（Ｓ）－２－｛３－フルオロ－２－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－ピリジン－４－イル｝－ピロリジン－１－イル）－２－オキソ－エチル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	５１４．２９
１８	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［３－フルオロ－２－（４－フルオロ－ベンゾイル）－ピリジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	５１３．２６
１９	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－２－（（Ｓ）－２－｛２－アミノ－６－［Ｎ－（４－フルオロ－フェニル）－ヒドラジノ］－ピリジン－４－イル｝－ピロリジン－１－イル）－１－シクロヘキシル－２－オキソ－エチル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	５１２．３１
２０	（Ｓ）－Ｎ－｛（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－オキソ－２－［（Ｓ）－２－（４－フェノキシ－ピリジン－２－イル）－ピロリジン－１－イル］－エチル｝－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４６５．３
２１	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－フェノキシ）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９８．３
２２	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［４－（４－フルオロ－ベンゾイル）－ピリジン－２－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９５．３
２３	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－ベンゾイル）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１	５１０．３

	－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	
２４	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－（（Ｓ）－２－｛５－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－ピリジン－３－イル｝－ピロリジン－１－イル）－２－オキソ－エチル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９６．３
２５	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－（（Ｓ）－２－｛４－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－ピリジン－２－イル｝－ピロリジン－１－イル）－２－オキソ－エチル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９６．３
２６	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－（（Ｓ）－２－｛６－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－２－メチル－ピリミジン－４－イル｝－ピロリジン－１－イル）－２－オキソ－エチル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	５１１．３
２７	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－ベンゾイル）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１－カルボニル｝－２－メチル－プロピル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４５８．２
２８	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－ベンゾイル）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１－カルボニル｝－２－メチル－プロピル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４７０．２
２９	（Ｓ）－Ｎ－［（Ｓ）－１－（（Ｓ）－２－｛６－［（４－フルオロ－フェニル）－メチル－アミノ］－２－メチル－２－ピリミジン－４－イル｝－ピロリジン－１－カルボニル）－２－メチル－プロピル］－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４７１．３
３０	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－シクロヘキシル－２－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－フェニルアミノ）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１－イル｝－２－オキソ－エチル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４９７．３
３１	（Ｓ）－Ｎ－（（Ｓ）－１－｛（Ｓ）－２－［６－（４－フルオロ－フェニルアミノ）－２－メチル－ピリミジン－４－イル］－ピロリジン－１－カルボニル｝－２－メチル－プロピル）－２－メチルアミノ－プロピオンアミド	４５７．３

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００６１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００６１】
適切な抗原として、生きている、弱毒化された、もしくは死んでいる癌細胞または癌細胞フラグメントも挙げられる。癌細胞は、それらが増殖不能となるように、抗原として使用される前に放射線照射または別の方法で処置されていてもよい。細胞はまた、抗原として使用される前に、破壊、剪断、超音波処理または溶解されてもよい。好適な一実施形態において、抗原として使用される癌細胞は、本明細書に記載の方法に従って抗原を投与される被検体から採取される自己由来細胞である。別の実施形態では、抗原として使用される癌細胞は、異種異系細胞である。